

中村裕太 丸い柿、干した柿

関連展示

本展は「濱田庄司展」の関連展示として、美術家中村裕太(1983-)が、濱田の仕事に焦点を当てた新作を発表します。これまで中村は「民俗と建築にまつわる工芸」という視点から近代以降の工芸文化を多角的に考察し、国内外の国際展などで作品を発表してきました。会場では、濱田と石黒宗麿(1893-1968)の制作方法や陶器の手触りを手がかりに、それぞれの作品を読み解いていきます。

水平から丸はできるかな？

濱田庄司《焼締丸文 蓋物》は、焼締の胎土にベタ塗りの丸文が四方に施されています。このような意匠は、濱田が度々訪れた沖縄の壺屋で作られていた茶壺の意匠とのつながりが指摘されています。本作では、濱田の丸文がどのように作られたのかを検証するとともに、讃岐民芸館所蔵のやきものの制作方法とのつながりを見出していきます。



参考図版:《焼締白鉄釉丸文茶壺》壺屋(沖縄)、19世紀、日本民藝館蔵



濱田庄司《焼締丸文 蓋物》1949年頃、大阪市立東洋陶磁美術館蔵(堀尾幹雄氏寄贈)

ツボノナカハナダロナ？

濱田とともに1955年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定された石黒宗麿は、中国や朝鮮の古陶磁を遡った近代的な個人作家として紹介されてきました。ところが、石黒が晩年まで作陶した京都の八瀬陶窯に捨て去られた陶片からは、陶器作りに苦心する新たな一面を見出すことができます。本作では、手や耳の感覚を研ぎ澄ませ、壺のなかに入ったひとつひとつの陶片に触れることで、石黒宗麿《壺「晩秋」》を解きほぐしていきます。

※本作では2020年度に京都国立近代美術館で開催された鑑賞プログラムを再構成します。



石黒宗麿《壺「晩秋」》1955年頃、京都国立近代美術館蔵



中村裕太《ツボノナカハナダロナ?》2020年 撮影|表恒匡

作家プロフィール

濱田庄司(1894-1978)

神奈川県生まれ。1913年東京高等工業学校窯業課に入学し、板谷波山に教えを受ける。1916年の卒業後、京都市陶磁器試験場に就職。1920年にバーナード・リーとともに渡英し、セント・アイヴスに築窯。1924年帰国後、益子に拠点を定め、1931年に築窯する。一方で、1925年には柳宗悦や河井寛次郎らとともに「民藝」を造語し、民藝運動を促進させ、柳の死後は1962年に日本民藝館館長に就任、1970年より大阪日本民芸館館長を兼任した。1977年に財団法人益子参考館を開館。また、1955年に重要無形文化財保持者に「民芸陶器」で認定され、1968年に文化勲章を受章。

石黒宗麿(1893-1968)

富山県生まれ。東京、埼玉、金沢、京都と転居しながら作陶を続け、1935年に京都市八瀬に「八瀬陶窯」を築窯する。特定の師にはつかず、小山富士夫との中国・朝鮮の古典陶磁の研究を通して、陶芸技法を体得。天目釉をはじめとした多彩な技法によって近代感覚に溢れた作品を制作した。1955年に重要無形文化財保持者に「鉄釉陶器」で認定され、1963年に紫綬褒章を受章。

中村裕太(1983-)

東京都生まれ、京都在住。2011年京都精華大学博士後期課程修了。博士(芸術)。京都精華大学芸術学部特任講師。〈民俗と建築にまつわる工芸〉という視点から陶磁器、タイルなどの学術研究と作品制作を行なう。近年の展示に「第20回シドニー・ビエンナーレ」(キャレージワークス、2016年)、「あいちトリエンナーレ」(愛知県美術館、2016年)、「MAMリサーチ007:走泥社—現代陶芸のはじまりに」(森美術館、2019年)、「表現の生態系:世界との関係をつくりかえる」(アーツ前橋、2019年)、「ツボノナカハナダロナ?」(京都国立近代美術館、2020年)。著書に『アウト・オブ・民藝』(共著、誠光社、2019年)。

関連イベント ※お問い合わせ・お申込みは高松市美術館(電話087-823-1711)まで

記念講演会「濱田窯90年 濱田庄司、晋作、友緒の仕事」

濱田窯三代それぞれの仕事振りや民藝運動、益子焼、さらに世界との繋がりなどについての講演会です。

11月13日(土) 13:30~15:00(13:00開場)

◎講師 | 濱田友緒(公財)濱田庄司記念益子参考館館長、濱田窯代表、陶芸家
◎会場 | 1階講堂◎定員 | 40名◎無料◎要電話申込11月2日(火)午前8:30~

記念対談「忘れられた民藝」

これまであまり語られることのなかった濱田庄司と石黒宗麿の仕事の関わりや、讃岐民芸館の民芸品について語り合います。両会場を巡るギャラリートークと講堂での対談の二部構成です。

12月19日(日) 13:30~16:00(予定)

◎出演 | 鞍田崇(明治大学理工学部准教授、哲学者)、中村裕太(出品作家)
◎会場 | 2階展示室・1階講堂◎定員 | 20名◎要観覧券◎要電話申込11月16日(火)午前8:30~
◎共催 | 京都精華大学伝統産業イノベーションセンター

ギャラリートーク(展示解説)

学芸員 | 11月14日(日) 14:00

ボランティアcivi | 会期中の日曜日(ただし、11月14日及び12月19日を除く)・祝日 14:00

◎いずれも2階展示室◎要観覧券

ミニコンサート「郷愁を語るホルンの響き」

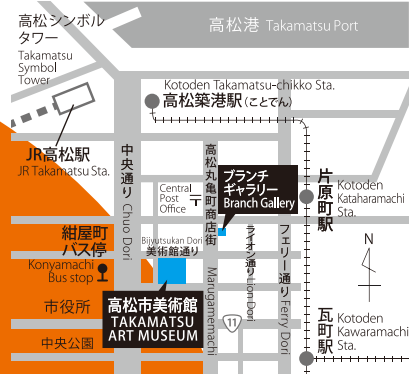
12月11日(土) 13:30~14:00

◎出演 | 山下咲希(ホルン)、大山まゆみ(ピアノ)
◎曲目 | 冬の童謡メドレー(冬の星座~雪~冬の夜~たき火~冬景色)、ほるん・ど・こんび〜ら!、ダマース作曲「子守唄」
◎会場 | 1階講堂◎定員40名◎無料◎要電話申込11月23日(火)午前8:30~

※新型コロナウイルスの感染拡大状況によってはイベント開催を延期・中止する場合があります。ご来場前に必ずホームページにて開催の有無をご確認ください。

交通のご案内

- JR | 高松駅下車、徒歩約15分
- ことでん | 瓦町駅または片原町駅下車、徒歩約10分
- 路線バス | 紺屋町または丸亀町参番街下車、徒歩約3分
- 高速バス | 県庁通り下車、徒歩約8分
- 空港リムジンバス | 兵庫町下車、徒歩約4分
- 駐車場 | 美術館地下に公営駐車場(有料、乗用車144台収容) 〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel:087-823-1711



高松市美術館
TAKAMATSU ART MUSEUM



高松市美術館のSNSをぜひご覧ください

大阪市立東洋陶磁美術館所蔵
堀尾幹雄コレクション 濱田庄司展
関連展示

中村裕太 一丸い柿、干した柿

2021.11.13(土) — 12.19(日)

休館日 | 月曜日

開館時間 | 午前9時30分～午後5時

(入室は閉館30分前まで)

※ただし金曜日・土曜日は午後7時閉館

主催 | 高松市美術館

企画協力 | 京都国立近代美術館

特別協力 | 大阪市立東洋陶磁美術館、京都精華大学伝統産業イノベーションセンター、

特別名勝栗林公園 讃岐民芸館

観覧料 | [一般] 1,000円(800円) ※65歳以上も一般料金、

[大学生] 500円(400円)、[高校生以下] 無料

※()内は20名以上の団体料金

※身体障害者手帳・療育手帳または

精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

※本料金で「濱田庄司展」、「中村裕太展」及び「常設展」もご覧いただけます。

高松市美術館

Takamatsu Art Museum

T.A.M.